

17 飼料穀物備蓄・流通合理化事業

【令和4年度予算概算決定額 1,750（1,750）百万円】

＜対策のポイント＞

配合飼料製造事業者等が、不測の事態に備えて策定している事業継続計画（BCP）に基づき実施する飼料穀物の備蓄、緊急運搬、関係者の連携体制の強化の取組、飼料流通の効率化の実証等の取組を支援することにより、配合飼料の安定供給を確保し、畜産経営の安定を図ります。

＜事業目標＞

畜産農家への安定的な配合飼料の供給

＜事業の内容＞

1. 飼料穀物備蓄対策

① 民間が事業継続計画（BCP）に基づいて実施する飼料穀物の備蓄をはじめとする配合飼料の安定供給のための取組に対し、その費用の一部を支援します。

② 非常時における円滑な対応を図るため、関係者の連携体制の強化に向けた協議会の開催や、原料の利用・配合飼料の生産状況の調査等の取組を支援します。

（これまでの主な対応事例）

平成17年9月～ ハリケーン「カトリーナ」による飼料穀物のひっ迫懸念に対応。

平成23年3月～ 東日本大震災により、東北地方以外の工場での増産による代替供給に必要な飼料穀物のひっ迫に対応。

平成24年10月～ 南米等の脆弱なインフラ等に起因する輸送遅延が生じた事態に対応。

平成29年2月～ 北米の寒波の影響により、飼料用とうもろこしの輸送遅延が生じた事態に対応。

令和元年10月～ 台風19号による配合飼料工場浸水に伴う工場停止に対応し、配合飼料の緊急運搬を実施。

令和2年3月～ 新型コロナウイルス感染症の影響で、配合飼料工場の出勤人員が減少した際に、他工場から配合飼料の緊急運搬を実施。

2. 飼料流通合理化対策

① 持続可能な飼料輸送の実現に向けた検討に係る取組を支援します。

② 飼料流通の効率化・標準化に資する実証の取組を支援します。

＜事業の流れ＞

国

15/17以内、1/3以内、1/2以内、定額

民間団体等

＜事業イメージ＞

○ 飼料穀物の備蓄（補助率5/17以内、1/3以内）

配合飼料メーカー等が実施する飼料穀物の備蓄の取組に対し、その費用の一部を支援。新型コロナ

BCPに基づき、リスクの内容に応じて活用

※備蓄穀物は、とうもろこし、こりゃん、大麦、小麦、大豆油かす、ふすまの中から民間が選択

＜リスク内容の例＞

北米の寒波

東日本大震災

ハリケーン

○ 配合飼料の緊急運搬（1/2以内、定額）

国内の災害等により、配合飼料の供給が困難となった地域に対する配合飼料の緊急運搬を図るため、必要な費用の一部を支援。

○ 関係者間の連携のための環境整備

非常時における円滑な対応を図るため、平時における関係者の連携体制の強化の取組（協議会の開催、配合飼料の生産状況の調査等）を支援。

○ 持続可能な飼料輸送の実現に向けた検討（定額）

協議会等が行う飼料輸送の課題解決に向けた取組を検討する取組を支援。

○ 飼料輸送の効率化・標準化の実証（定額、1/2以内）

超音波センサー等を用いた飼料在庫・配送管理や飼料タンク蓋の遠隔開閉装置等の設置による飼料投入の効率化、鉄道等を用いた共同輸送等の取組を支援。

超音波センサーの設置